

住民交え情報伝達訓練

常総 洪水想定、個別計画発表

「マイ・タイムライン」に沿って行動を発表する市民＝常総市新石下



難指示の発令までの3日間を、六つの場面に分けて情報伝達を行った。

また地域住民は「マイ・タイムライン」に沿って「家財などを2階へ移す」「ブレーカーを落とす」などの防災行動を発表。実際に避難しなければならぬタイミングになった場合、会場に設けられた「避難先エリア」に移動した。

国交省関東地方整備局下館河川事務所の石田和也副所長は「マイ・タイムラインを使い、住民の方に参加していただく訓練は初の取り組み。災害の際、住民がどのような思いで行動するのか検証した」と話した。

常総市若宮戸の土河隆さん(66)は「訓練では、今まで見えなかった行政の動きが見ることができた。(一昨年の水害で)避難した時には何も情報がなく動けなかったので、正確な情報を出すようにしてもらいたい」と話した。

国や県、市町で構成する「鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」は28日、常総市新石下の石下体育館で洪水時情報伝達演習を行った。組織間の情報伝達手順を確認したほか、常総市民が作成した個人の避難計画「マイ・

タイムライン」を使い、それぞれの場合の行動を発表した。訓練には、市民14人を含む約50人が参加。訓練は台風が接近して栃木県内で大雨があり、鬼怒川の水位が上がるとの想定で行われた。台風情報の発表から避